

クルマ・バイクの故障、
トラブルの受付



JAFスマートフォンアプリ(Android & iOS対応)や
救援要請ウェブサイトからもJAFを呼ぶことが
できます。

住所変更などの各種手続き、
会員サービスのご案内



ウェブからのお問い合わせ



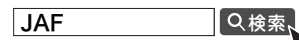
カテゴリごとに整理されたFAQ(よくあるご質問)
やお問い合わせフォームをご利用ください。

JAFマイページ



住所・電話番号の変更など各種手続きがウェブ
で簡単にできます。

発行/一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
〒105-0012
東京都港区芝大門1-1-30
日本自動車会館
制作/(株)JAFメディアワークス 2026年6月



JAFについてご紹介します。

about JAF 2026

CONTENTS 目次

いつでも、どこでも。 クルマとともに、暮らしとともに。	02	社会課題への取り組み	12
くるま社会のセーフティネット	04	モータースポーツの振興	18
会員優待サービスとイベント	08	コミュニケーション	20



一般社団法人
日本自動車連盟

いつでも、どこでも。 クルマとともに、暮らしとともに。



一般社団法人
日本自動車連盟(JAF)

会長
坂口 正芳
Sakaguchi Masayoshi

私たちJAFは1963年の創立以来、モビリティユーザーの安全と安心を支えるロードサービスをはじめ、各種サービスを提供してまいりました。現在、会員数は2000万名を超え、皆さまからのご支援に心より感謝申し上げます。

JAFを取り巻く環境は、少子高齢化やモビリティの多様化、インバウンドの増加など大きく変化しておりますが、皆さまのご期待に応えるべく「対話と共創」により、つねに進化し続け、安全・安心な地域社会を支えることを目指して事業を進めています。

ロードサービスでは、会員の皆さまからの利用が増加しており、その期待の大きさを実感しております。2023年に4都府県から実証実験を開始した電気自動車の電池切れに対応する「BEV充電サービス」も2025年12月には47都道府県へと拡大しました。

社会貢献活動では、2025年8月に記録的な降雨により大規模な災害が発生した熊本県に、全国各地からJAF特別支援隊を編成し派遣しました。冠水や水没による被災車両の救援を通じて復旧活動を支援するため、18日間で延べ246名の隊員が活動しました。JAFでは、被災されたお客さまからの救援要請に的確に対応できるよう、迅速に救援活動をおこなえる体制を整えております。

また、信号機のない横断歩道での歩行者保護についての調査は10回目を迎えました。今回の調査では、停止率が56.7%となり、調査開始から過去最高となりました。しかしながら、いまだに約4割のクルマが停止しない現状があり、引き続き関係機関と連携し啓発活動を進めてまいります。

会員サービスでは、会員の皆さまが日常的にご利用いただける会員優待施設の充実や観光スポットなどをめぐるドライブスタンプラリー、イベントの実施など、さまざまな生活シーンで楽しめるコンテンツの拡充を進めております。

モータースポーツでは、トップカテゴリーの競技はもとより、モータースポーツ初心者でも気軽に楽しめるオートテスト、ドリフトテストまで、全国各地でのJAF公認競技会の開催を支援しました。今後も各地域のモータースポーツクラブと連携し、さらなる活性化をはかってまいります。

JAFはこれからも健全なモビリティ社会の実現に向け、「対話と共創」をテーマにさまざまな事業活動に取り組んでまいりますので、いっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

JAFの基本理念

JAFは、安全と安心の支えとなるサービスを提供し、移動価値が高い社会の実現を目指します。

JAFの運営指針

- 1 **サービスのJAF** 私たちは、サービス精神をもって、社会のために尽くすことを事業推進の基本とします。
- 2 **チャレンジするJAF** 私たちは、つねに問題意識をもって改革を進め、創意工夫と旺盛なチャレンジ精神を発揮して、事業の推進に努めます。
- 3 **開かれたJAF** 私たちは、会員をはじめ多くの人々の声に耳を傾け、広く社会に開かれた組織を目指します。



くるま社会の セーフティネット

トラブルの現場に急行し、迅速に救援。
信頼のロードサービスで、全国を広くカバーし、
くるま社会のセーフティネットを実現します。

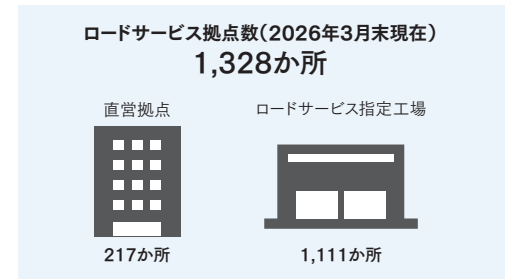
救援は年間230万件以上
約13.7秒に1件の割合で出動

いつでもどこでも起こるかわからないクルマやバイクのトラブル。救援要請を受けると、全国各地の拠点から隊員が現場へ駆けつけ、速やかに車両救援にあたります。2025年度の出動件数は230万件以上。お客様の安全・安心はもちろん、円滑な交通環境の維持にも貢献しています。



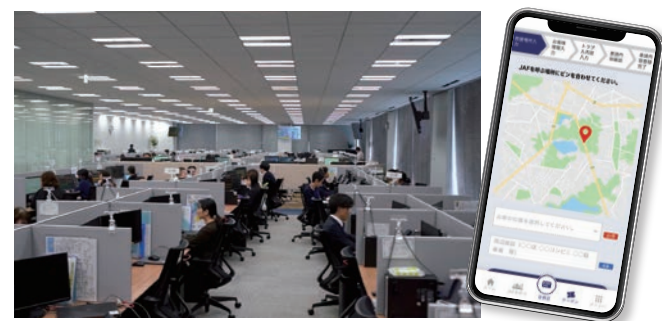
	2025年度	2024年度
合計	2,309,716件	2,295,304件
うち二輪	96,032件	92,632件
一般道路	2,246,118件	2,230,995件
うち二輪	93,732件	90,345件
高速道路	63,598件	64,309件
うち二輪	2,300件	2,287件

一般道路・高速道路			
四輪・二輪	1 過放電バッテリー	792,392件	34.3%
合計	2 タイヤのパンク、バースト、エア不足	482,696件	20.9%
	3 破損/劣化バッテリー	204,724件	8.9%



スマートフォンから
救援要請が簡単に

電話での救援要請に加え、「JAFスマートフォンアプリ」や「救援要請ウェブサイト」から、画面操作だけでJAFを呼ぶことができます。GPS連携により現場特定もスムーズで、救援を待つ間もサービスカーの現在地を確認でき、安心してご利用いただけます。



現場到着をより早く
「ACⅢ」で最適化を実現

サービスカーがいち早く到着できるよう導入されているのが「ACⅢ」システム。予測できない救援要請に対して、各車の動態や道路状況、ルートなどを考慮しながら最適な配車管理を実現。拠点・ネットワークの調整とともに稼働強化に取り組み、2025年度の平均現場到着時間は41.2分となりました。



いつでもどこでも
24時間・365日体制

JAFロードサービスは24時間・365日・無休で対応。一般道路や高速道路上でのトラブルはもちろん、お客様の自宅車庫や外出先の駐車場などへも駆けつけます。パンクやバッテリー上がり、キーの閉じこみ、20kmまでのけん引など、会員ならほとんどの作業が無料です。



バイクの移動や
タイヤトラブル対応を拡充

バイクの移動は対応できるサービスカーが限られていましたが、二輪アタッチメントの開発により解決。レッカー車でもバイクのけん引が可能となり、現場へ迅速に到着できるようになりました。また、タイヤトラブルによる自走不能な乗用車を対象に、タイヤ貸し出しサービス(会員限定)を実施しています。



ビデオ通話による
オンラインでの救援活動も

業界に先駆け、会員のみを提供している「ビデオアドバイザーロードサービス」。スマートフォンのビデオ通話機能を利用し、救援要請されたお客様から届くリアルタイム映像を確認しながらアドバイス。サービスカーが出動することなく、オンラインでトラブルが解決するケースもあります。



「BEV充電サービス」 対象エリアを全国へ拡大

電気自動車(BEV)の電欠トラブルに対応するため、「BEV充電サービス」を実施しています。充電器を搭載したサービスカーの導入を進め、対象エリアを全国へ拡大しました。燃料電池車(FCEV)についても、トヨタ自動車(株)と移動式給水素車の開発に取り組んでいます。



多様化するトラブルにも 確実に対応

日々進歩するクルマの技術。多様化するトラブルに確実に応えるべく、最新技術に関する研修や、クルマに精通したテクニカルサポート課によるバックアップ体制を構築。蓄積してきた救援のノウハウは、ユーザー支援ウェブコンテンツ「クルマのトラブル診断」にも活用されています。



サービスの品質を支える 研修・検定制度と競技大会

すべての隊員が高品質かつ均質なサービスを提供できるよう、キャリアに応じた研修の受講や社内検定の受検が義務付けられています。実技や接遇、規律性の向上に日々励み、その成果を披露する場として「JAF全国ロードサービス競技大会」を開催。各地方代表の隊員が磨き上げたスキルを競います。

※通常は隔年開催(2027年度に開催予定)



「JAF全国ロードサービス競技大会」を 初の一般公開

全国を8地方に分けて実施している競技会。2025年度は「JAF全国ロードサービス競技大会」を初めて一般公開し、救援作業を来場者の間近で披露。JAFが誇るロードサービスの技術力や安全・安心への取り組みを発信し、JAFへの理解と信頼を深めていただく機会となりました。



富士スピードウェイ(静岡県)のイベント会場で開催しました。全国大会を「競技大会」、地方予選会などを「競技会」としています。

「なによりも人命最優先」 現場の安全確保を徹底

隊員が現場で真っ先におこなうのが「安全確保」です。二次事故防止のために、高速道路などでは後方警戒を実施し、安全資機材や発炎筒を設置。作業中、お客さまには安全ベストを着用のうえ、安全な場所で待機していただきます。夜間も視認性を確保し、人命最優先で作業にあたります。



選抜隊員で編成される ロードサービス特別支援隊

災害などの突発事象発生時に派遣されるロードサービス特別支援隊。全隊員約1,800名以上のなかから、技術力・運転操作技量・忍耐力・協調性に優れた100名ほどが選抜され、特別な訓練を重ねます。2025年度も記録的な大雨に見舞われた熊本県に派遣され、車両救援に尽力しました。



地域防災における 関係機関との連携

自治体や警察、消防などと合同で、災害時を想定した防災訓練を定期的におこなっています。被災車両の救援や緊急交通路の確保など、実践訓練を通して各々の役割を確認します。日頃から連携を深め、地域防災に貢献できるよう備えています。

2025年度 自治体などとの合同防災訓練への参加実績

回数	67回	参加隊員数	延べ165名
----	-----	-------	--------



お客さま満足度を アンケート調査

ロードサービスを利用したお客さまを対象にアンケートを実施しています。ロードサービス全体に対する評価として、97.0%*の方から「とても良い・良い」との回答をいただいております。高い評価を維持しています。結果については、さらに精査・分析し、サービス品質向上に役立てています。

※集計期間:2025年7月~2026年3月





会員優待サービス とイベント

全国で使える会員優待や楽しいイベント、暮らしの安心を支えるライフサポートなど、会員の生活に寄り添ったサービスを提供します。

飲食店やガソリンスタンドなど 会員優待施設は約4万4000か所*

さまざまなお店で割引や特典が受けられる会員優待サービス。会員証の提示(一部は予約などが必要)で利用できる手軽さが魅力です。飲食店や観光施設、温泉、道の駅など、全国各地に多彩な会員優待施設があり、お住まいのエリアはもちろん、ドライブや旅行先でもおトクに利用できます。

※2026年3月末現在



会員優待施設の主なジャンル

グルメ/ショッピング/温泉・入浴施設/観光名所、動物園など/
美術館、博物館/道の駅/ガソリンスタンド/アミューズメント/
遊園地・テーマパーク/暮らし/アウトドア/
SA・PA/宿泊/旅行/カルチャー/その他

「全国どこでも使える!」を目標にサービス強化



会員の皆さまが地域差なく会員優待を利用できるように、全国展開している企業や地域のチェーン店、オンラインで使えるサービスを強化しています。お住まいの地域や外出先を問わず会員メリットを実感していただけるよう、今後も会員優待施設の拡充に取り組みます。

JAF優待情報サイト 「JAFナビ」

会員向けのおトク情報を紹介しているウェブサイト「JAFナビ」。会員優待ページでは、会員優待施設検索のほか、キャンペーンや新規優待情報を随時更新。ドライブ情報ページでは、おでかけスポットやイベント、おすすめのドライブコースを掲載し、会員の利用機会とおでかけの楽しさを広げています。



※ウェブサイトのデザインは変更になる場合がございます。

クーポン利用者は年々増加 「JAFスマートフォンアプリ」

「JAFスマートフォンアプリ」では会員優待施設の検索をはじめ、アプリで表示できるデジタル会員証の提示で会員優待サービスを受けることができます。また、利用者のニーズや季節に応じたアプリクーポンを企画し、全国チェーン店から地元の会員優待施設で使えるクーポンまで多数配信しています。



ユーザーの好みに合った 「イチオシクーポン」で利用促進



続々と配信される「JAFアプリクーポン」。会員優待施設でクーポンを使えば使うほど、利用傾向に応じたクーポンが表示される機能により、使いたいクーポンを見つけやすくしています。気になるクーポンをアプリ内の「お気に入り」に登録しておけば、店頭での提示もスムーズで、利便性向上と利用促進につながっています。

※JAFアプリクーポンを一度も使ったことがない場合は、JAFおすすめのクーポンが表示されます。

切り取りクーポンが満載 「JAF PLUS」

機関誌「JAF Mate」と一緒に年4回お送りしている情報紙「JAF PLUS」。毎号、旬のおトク情報やお住まいのエリアの会員優待情報をお届けしています。なかでも種類豊富に取り揃えている切り取りクーポンは、「JAFアプリクーポン」とともに根強い人気です。



永年継続会員の皆さま限定の 「JAFプレミアムサービス」

JAFを10年以上ご継続いただいている個人会員の皆さまに、特別なサービスをご用意しています。

JAFプレミアムサービス

	10年以上	20年以上	30年以上
永年ステッカー進呈	○	○	○
カンドゥー(永年継続会員向けサービス)	○	○	○
永年継続会員向けJAF通販紀行特別販売	○	○	○
トラベルデスク	○	○	○
トラベルデスククーポン	—	—	○



自治体や観光協会と協働した 地域振興活動

ドライブによる地域振興を目的に、全国の自治体や観光協会と連携してドライブスタンプラリーや各種イベントを開催しています。また、会員優待サービス・プレゼント企画を通じて、名産品や特産品をJAFの各種媒体でPRし、地域の魅力発信と交流人口の創出に取り組んでいます。



エリア周遊で交流人口増加を促す 「ドライブスタンプラリー」



アプリのダウンロード不要、スマートフォンで参加できるドライブスタンプラリーは、参加者が好きなタイミングで楽しめる点が人気です。2025年度は複数の自治体をまたぐ広域開催も多く、142コースを実施。スタンプ総押下数33万回以上となり、地域回遊の促進と交流人口の増加に寄与しました。

海外旅行先のレストランや ホテルなどもおトクに

会員はアメリカやカナダで現地自動車クラブのロードサービスを受けられるほか、レストランやホテルなどを特別料金で利用できます。一方、訪日した海外の自動車クラブ会員に対しては、国内約3,800か所*の施設で優待サービスを実施しています。

※2026年3月末現在



JAF会員はポイント2倍* 「JAF通販紀行」

JAFオリジナルミカやカー用品をはじめ、ファッションアイテムや便利な雑貨など、豊かなカーライフを応援する商品を厳選して販売。JAF会員は買い物で貯まる「J.S. サンクスポイント」がいつでも2倍*。貯まったポイントは支払いに使うことができます。

※ECサイトからのご注文に限ります（JAFマイページ登録、認証で適用）。販売：(株)JAFサービス



産学官連携で推進する 地域活性化プロジェクト

大学や自治体などと取り組む地域振興は、2025年度において7地方本部22支部が33校と活動しました。滋賀支部は龍谷大学経営学部(秋庭ゼミナール)の学生および高島市と連携しました。学生の視点を生かした新たな地域観光情報の記事を共同で作成し、「JAF Mate」にて紹介しました。



思い出づくりにぴったり 楽しい会員向けイベント

JAFでは会員向けに、味覚狩りやものづくり体験など、四季折々の魅力を感じられる多彩なジャンルの体験型イベントを、全国各地で定期的開催しています。申し込みや支払いもウェブで簡単に手続きが完了します。親子連れからシニアまで、気軽に参加して思い出づくりができると好評です。



暮らしの安心も提供する 「JAFライフサポート」

「クルマの不安だけでなく、あらゆるシーンで頼れるJAFになりたい」。家計にうれしい会員優待サービスに加え、日々の暮らしをサポートするサービスも展開しています。60年以上ロードサービスで培ってきた安全・安心の考え方を、毎日の生活にも広げ、会員の暮らしを支えています。



「JAFライフサポート」

● JAFでんき

JAF個人会員年会費4,000円相当の特典*が毎年もらえるJAFの電気サービスです。申し込みは簡単シンプルで面倒な手続きもありません。

※特典提供には条件あり。



サービス提供元: auエネルギー&ライフ(株)

● JAFの保険

医療保険、がん保険、傷害保険、親介護保険といった、さまざまな保険プランを用意しています。お見積り(無料)や加入もウェブから簡単にできます。



代理店・振替: (株)JAFサービス保険部
引受保険会社: 三井住友海上火災保険(株)



社会課題への取り組み

交通安全や税制問題などの課題に向き合い、調査・啓発・提言活動を通じて、健全で明るいくま社会の発展を目指します。

実車を使って学べる 実技講習会

運転に苦手意識や不安のあるドライバーのために、マイカーでの体験型講習や車庫入れ講習を開催。インストラクターの指導のもと、実技体験を通して運転特性の確認や行動の変容を促します。

2025年度 実技講習会 開催実績

	開催数	受講者数
ドライバーズセミナー	33回	347名
シニアコース	26回	254名
ニガ手克服講習(車庫入れなど)	42回	120名



高齢ドライバーの安全運転を 講習会やウェブでサポート

社会問題のひとつになっている高齢ドライバーによる交通事故。JAFではシニア向けの実技講習会を開催しているほか、ウェブサイト「エイジド・ドライバー総合応援サイト」で長く安全に運転するための情報を公開。オンラインで自分の認知・目・耳の機能状況の把握とトレーニングができます。



クルマに関する疑問を検証する 「JAFユーザーテスト」

自動車ユーザーが感じている疑問や不安をJAFが独自に実験・検証。冠水路走行テストや年間約100人が命を落としている路上寝込み事故の検証など、2025年度も社会ニーズを捉えた3つのテーマを検証しました。結果は公式YouTubeやウェブサイトで公開し、報道機関に資料提供もしています。



子どもたちが楽しく学べる 交通安全啓発ツール

交通安全を学べるクイズに答えて発行される「子ども安全免許証」や反射材の効果体験できる「リフレクBOX」。楽しく体験しながら学べるツールで、交通安全の啓発をしています。

2025年度 子ども安全免許証発行イベント 開催実績

開催数	2,179回	体験者数	171,498名
-----	--------	------	----------

2025年度 反射材効果体験 開催実績

開催数	518回	体験者数	66,789名
-----	------	------	---------



子どもたちに交通ルールを 教える「ドレミぐるーぷ」

2007年から続く「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」の活動。音楽愛好家らのボランティアグループの協力によって運営されており、幼稚園児・保育園児とその保護者を対象に、交通ルールを守ることの大切さを音楽を通じて伝えています。

2025年度「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」開催実績

公演数	134回	参加人数	13,392名
-----	------	------	---------



危険予知トレーニングなど ウェブで学べる交通安全

安全運転のコツや交通安全の知識を、パソコンやスマートフォンで気軽に学べるウェブコンテンツを提供。2025年度は「『実写版』危険予知・事故回避トレーニング」に動画を追加したほか、自転車の交通安全啓発サイト「自転車ナビ」や動画「教えて！JAF先生」の特設ページを新たに公開しました。

ウェブサイトで公開中の主な交通安全啓発コンテンツ

●安全運転のコツ 高齢運転者のための「エイジド・ドライバー総合応援サイト」 「実写版」危険予知・事故回避トレーニング JAF交通安全トレーニング(法人向けサブスクリプションサービス) 交通安全3分トレーニング(危険予知クイズ) 動画でCheck! 交通安全カテゴリー10	
●いのちを守るために 後席シートベルトの安心力 チャイルドシート完全ガイド 360度VR動画 地震・台風・大雪時の運転は危険!知っておくべき注意点	●クルマの知識、悩みや疑問の解決 私にもできるマイカー点検 JAF Safety Light(ヘッドライトの使い方) クルマのトラブル診断 クルマ何でも質問箱
●自転車ナビ	教えて!JAF先生



●自転車ナビ
自転車の安全利用を啓発する特設サイト。交通ルールやマナーはもちろん、未就学児(保護者)、小学生、中学生・高校生、大人ごとに自転車を利用する際の注意点を紹介しています。

●教えて!JAF先生
YouTuberの木村亜美さんなどとコラボし、安全運転のポイントをわかりやすく解説。特設ページでは、YouTubeで配信してきた動画シリーズをまとめて閲覧できます。

学校や企業の交通安全講習へ 専門講師を派遣

高校をはじめ、企業・団体から依頼を受け、交通安全の講義や研修に専門講師を派遣しています。対面・オンラインなど、さまざまな形式に対応し、JAFならではのデータやコンテンツを生かした講習で依頼元の課題解決を目指します。

2025年度 座学型交通安全講習会 開催実績

回数	4,037回	受講者数	657,435名
----	--------	------	----------



企業・団体向けeラーニング事業 「JAF交通安全トレーニング」

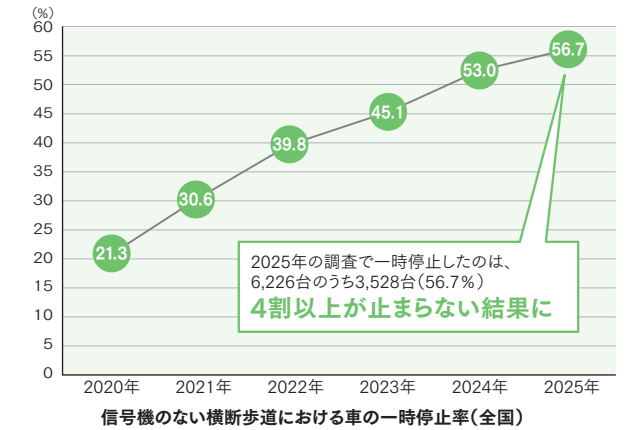
長年培った交通安全の知見とノウハウを教材化。安全運転管理業務の支援ツールとして企業や団体に提供しています。短時間で学べるコンテンツを豊富に用意し、毎日の学習を通して受講者の交通安全意識を継続的に向上。契約企業の拡大に取り組むことで、交通事故減少を目指します。

運営：(株)JAFメディアワークス



「信号機のない横断歩道での 車の一時停止状況」全国調査

2025年で10回目となった「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況」全国調査。一時停止率は過去最高の56.7%となりましたが、いまだに4割以上が止まっていません。継続的な調査結果の公表を通じて、全国的な交通安全の啓発と行動変容の促進につなげています。



「思いやりティドライブ」プロジェクト



横断歩道の全国調査もプロジェクトの一環です。結果はウェブサイトで公開中。

「街をゆくすべてのクルマが思いやりいっぱいだったら、もっと素敵な交通社会が成り立つはず」。そんな思いを叶えるために、交通ルールやマナーを守ることの大切さを発信。ひとりひとりの思いやりには社会を変える力があることを訴え、「共感の輪」を広げる活動を展開しています。

モビリティサービスを活用した 地域の交通課題への取り組み

観光地や過疎地など交通課題を抱える自治体や事業者において、新しい移動手段として期待されている「グリーンスローモビリティ」。JAFはヤマハ発動機(株)との協働事業で車両導入のサポートをおこなっており、これまで10自治体*に対し実証実験などを支援しました。

*2026年3月末現在



地域に役立つJAFを目指して 支部主体で進める地域貢献

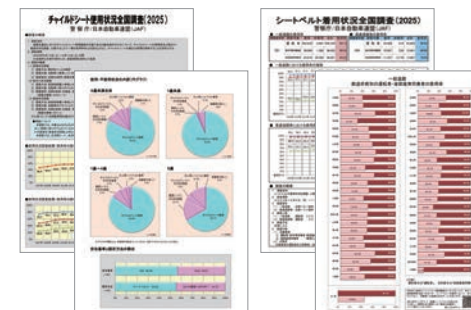
全国各支部が地域との対話によって社会課題を発見し、解決を目指す「支部のあり方・未来構想プロジェクト」。地域で必要とされる存在になることを目的に、2025年度も複数の支部が子ども支援や地域の防災・減災などをテーマに、地元企業や関係機関と活動しました。



チャイルドシート使用・ シートベルト着用状況の全国調査

警察庁と合同で全国一斉におこなっている「チャイルドシート使用状況全国調査」と「シートベルト着用状況全国調査」。自動車ユーザーの実態把握のために、2002年からコロナ禍を除き毎年*実施しています。2025年度も調査結果をウェブサイトや「JAF Mate」で発信し、使用・着用の徹底を訴えました。

*2020・2021年の「チャイルドシート使用状況全国調査」は中止



チャイルドシートと シートベルトの重要性を啓発

チャイルドシート使用とシートベルト着用の重要性を啓発。衝突の衝撃を体感できる専用車両での体験やチャイルドシート取り付け点検を実施するほか、ウェブサイトで実験動画も公開しています。

2025年度 シートベルト効果体験 開催実績

開催数	793回	体験者数	103,907名
-----	------	------	----------

2025年度 チャイルドシート取り付け点検 開催実績

開催数	25回	受講者数	51名
-----	-----	------	-----



「災害時にクルマで困らない社会づくり」を支援

JAFは(一社)日本カーシェアリング協会と「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」協定を2023年に締結しています。被災地にクルマを無償貸与している同協会が事務局となり、企業・団体・自治体が平時から連携し、協力体制を構築。大規模災害時の迅速なモビリティ支援の実現を目指します。



「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」協定締結によるJAFの支援活動

(一社)日本カーシェアリング協会によるクルマの無償貸出し活動をバックアップするとともに、支援の輪がもっと広がるよう、今後もさまざまな形で協力していく予定です。

1. JAF会員に向けた本活動に関する広報
2. 車両の寄付/車両提供呼びかけ
3. 被災者が所有する車両の点検 など



JAFはこれまでに社用車および職員のマイカーを20台寄付しました(2026年3月末現在)。

道路交通環境に関する改善提案活動

信号機の設置状況や標識の不具合など、危険や不便を感じる道路環境。ドライバーや地域の方から寄せられた意見・要望を調査・検討して関係機関に改善提案するのが「交通安全実行委員会」です。2025年度は集まった543件のうち、223件を提案。以前からの案件を含め141件の改善が実現しました。



FIA加盟団体としてグローバルに活動

世界の自動車クラブで構成されるFIA(国際自動車連盟)に加盟し、世界第3位の会員数を誇る団体として国際的に活動。2025年度は世界中のFIA加盟クラブが「地域課題を解決するユニークな取り組み」を競う国際的な企画「FIAイノベーションチャレンジ」に参画し、入賞を果たしました。



自動車税制見直しを求める要望・提言活動

公平・公正・簡素な税制の実現に向け、各政党、関係省庁、国会議員に改善要望を提出しました。これまでの要望の結果としてガソリン暫定税率、軽油の暫定税率、環境性能割が廃止となりました。今後も自動車ユーザーの視点に立った要望・提言活動を継続していきます。



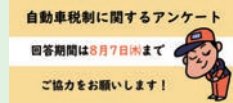
2025年度 自動車税制改正に関する活動

●自動車税制に関するアンケート調査
4～8月の調査で154,341名が回答。98.8%が「自動車に係る税金が負担」と答えた。なかでも「非常に負担に感じる」割合はここ10年で増加傾向にあり、自動車ユーザーの重税感が浮き彫りになりました。

●自動車ユーザーへの活動
全国各地のイベント参加者を対象に、「自動車ユーザーの生の声を集める活動」を実施。クルマの税金を巡る議論が本格化した時期に合わせて「Japan Mobility Show 2025」の会場でもユーザーの声を集めました。また、6月には全国8都市で、10～12月には全国実施となる街頭活動をおこない、関連団体とともに税負担軽減を訴えました。

●要望・提言活動
「2026年度税制改正に関する要望書」をとりまとめ、各政党、関係省庁、国会議員などに提出しました。

●SNSで情報発信
自動車税制に関するアンケート協力など、SNSを活用して自動車ユーザーに広く呼びかけました。



外国運転免許証の日本語翻訳文を発行

日本の運転免許証への切り替え時や、日本で運転する(特定国・地域に限る)際に必要となる、外国運転免許証の「日本語翻訳文」を発行。訪日外国人急増により2025年度の発行件数は過去最多に。「自動車カルネ」の発行・認証もおこなっています。

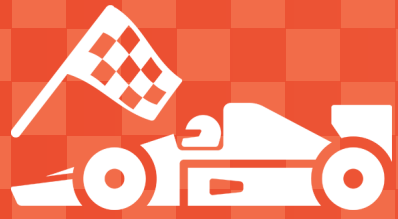
過去2年の「日本語による翻訳文」発行件数			
2025年度	149,133件	2024年度	148,091件



日本で運転する訪日・在日外国人へのサポート

コールセンターやロードサービスでは、英語、韓国語、中国語など24言語に対応した通訳サービスを導入。また、外国人への安全運転支援のため、日本の交通ルールを学べるショート動画を制作。日本在住のベトナム人に出演いただき、日本語、英語、中国語、ベトナム語の4か国語で公開しています。





モータースポーツ の振興

安全で持続的なモータースポーツ環境の整備に取り組み、
競技人口・ファン層のさらなる拡大と
モータースポーツ文化の発展に努めています。

モータースポーツの 統轄団体として

JAFは日本で唯一のFIA(国際自動車連盟)公認団体です。国内モータースポーツ全般の安全性向上策を推進し、参加型競技オートテストの促進や女性参加支援などによる競技人口の拡大に尽力。近年はEモータースポーツの普及も推進しています。

過去2年間の競技会公認件数

2025年	742件	2024年	787件
-------	------	-------	------



ライセンス取得を促進 発給数は年間7万件以上

ライセンスを取得しやすい環境づくりにも取り組んでいます。競技入門用資格の四輪国内Bライセンスについては、講習会のオンライン化により受講しやすくなったほか、マイカーで参加できるオートテストへの出場でも申請資格を得られます。

過去2年間の競技ライセンス発給数

2025年	70,773件	2024年	71,672件
-------	---------	-------	---------



通算24回目 伝統のJAF鈴鹿グランプリ

国内フォーミュラの最高峰・全日本スーパーフォーミュラ選手権の最終戦に冠される「JAFグランプリ」。2025年は三重県・鈴鹿サーキットにて11月に開催されました。JAFブースではEスポーツ体験コーナーや、クイズ参加のお子さまへのライセンスカード発行などが来場者に好評でした。



FIA世界選手権の 日本開催を支援

日本でおこなわれる各種FIA世界選手権の開催をサポートするのもJAFの役目です。1月から始まるモータースポーツシーズンにおいて、2025年には4つのFIA世界選手権が日本国内で開催されました。各大会の実現に向けて打ち合わせや視察をおこない、開催の支援に携わりました。



「ドライバー・オブ・ザ・イヤー」と 年間上位入賞者を称える表彰式

国内モータースポーツの一年を締めくくる表彰式。2025年11月、都内会場に各カテゴリーのチャンピオンや上位入賞者が集まりました。その年最も輝いた競技運転者を投票で決める「ドライバー・オブ・ザ・イヤー」には、F1で活躍した角田裕毅選手が2年連続で選ばれました。



安全な競技開催のため 関係者対象の講習会を実施

ラリー競技におけるスペシャルステージの安全性向上を目的とした講習会を全国3か所で開催し、約350名が参加しました。また、2026年に初のナイトレースとなるフォーミュラE東京大会に備え、コースオフィシャル対象の実技講習会を実施し、安全で円滑な競技運営を支える人材育成に取り組みました。



「モータースポーツジャパン」など 振興イベントを開催

2026年3月に、JAF主催の振興イベント「JAFモータースポーツジャパン2026 in 横浜」を開催。2日間で延べ5万3050人が来場し、デモ走行や同乗体験、マシンの展示など多彩なコンテンツを楽しみました。主要なレース会場にもJAFブースを出展し、モータースポーツの魅力を発信しています。





コミュニケーション

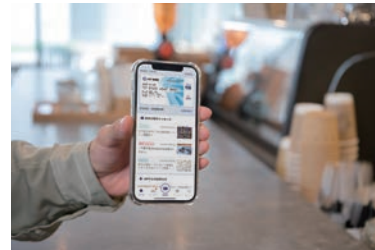
JAFのサービスを気軽に快適に。
コミュニケーションの充実をはかり、
皆さまに役立つ情報をお届けしています。

JAFスマートフォンアプリ

Android & iOS 対応

便利な機能を備えた公式アプリ
JAFのサービスをスマホひとつで快適に

JAFのサービスを簡単・便利に利用できる「JAFスマートフォンアプリ」。「デジタル会員証」「会員優待施設・クーポン検索」「ロードサービス救援要請」の3つの機能をメインに、その他のサービスにもスムーズなアプローチが可能です。2026年3月末現在、アプリ登録者は前年度から約28万名増え、771万名以上となりました。日常的にアプリを使っていたり、ドラッグストアや回転寿司チェーン店など、普段使えるクーポンを積極的に配信。クーポンを利用すると抽選でデジタルギフトが当たるキャンペーンを実施し、アプリの利用促進と満足度向上に努めました。



詳細・ダウンロードはこちらから

機能紹介

デジタル会員証

※個人会員・家族会員限定

ロードサービスや会員優待サービスも、デジタル会員証の画面提示で利用できます。



会員優待施設・クーポン検索

現在地やエリア、キーワード、ジャンルなどから、会員優待施設・クーポンを検索できます。



ロードサービス救援要請

GPS機能との連携で救援場所を特定。質問に答えるだけの簡単操作でJAFを呼べます。



ウェブサイト

コーポレートサイト

ロードサービス、交通安全、地域ニュース、企業情報など、JAFの活動やサービスを幅広く紹介。「マイページ」では、会員自身の登録情報を確認・変更することができます。



JAF Mate Online

機関誌「JAF Mate」のオンライン版で、カーライフや暮らしに役立つ記事を日々更新。メルマガやアプリとの連携を強化し、2025年度のアクセス数は前年度比146.0%となりました。



JAFナビ

JAF優待情報サイトとして、全国各地の会員優待施設を検索できるほか、ドライブコース・観光スポット・イベント情報が満載。会員向けプレゼント企画も充実しています。



JAFモータースポーツ

競技会カレンダーやリザルト、最新トピックのほか、基礎知識としてモータースポーツの歴史や各種目の概要などを紹介。競技者も初心者も楽しめるコンテンツを用意しています。



※ウェブサイトのデザインは変更になる場合がございます。

about JAF 2026

機関誌など

「JAF Mate」

年4回、会員の皆さまにお届けしている機関誌。連載記事「日本の魅力、再発見」をはじめ、交通安全情報、会員サービス案内を掲載。著名人のエッセイやインタビューも人気です。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2026年春号 13,736,000部



「JAF PLUS」

「JAF Mate」と一緒にお届けしている情報紙。人気の切り取りクーポンのほか、お住まいのエリアの会員優待情報やイベントなど、おトクな情報が盛りだくさんです。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2026年春号 13,643,720部



「JAFスポーツ」

ライセンス所持者に年4回送付している機関誌。モータースポーツの最新ニュースはもちろん、迫力ある写真とともに伝える競技の詳細レポートやインタビュー記事は読み応えたっぷり。

対象	ライセンス所持者
発行部数	2026年春号 46,230部



ソーシャルメディア

詳しくは



X

情報発信とユーザーとの双方向コミュニケーションのためにXを活用しています。2025年度、特に反響が大きかったのは車内の一酸化炭素中毒に関するポストで、大雪の影響により多くの関心が寄せられました。また、「JAF子ども安全ベスト」のクラウドファンディングでは、Xでのご案内を通じて多くの方からご支援をいただき、交通安全への共感と参加の輪を広げました。



JAF



JAF モータースポーツ



JAF PLUS_Tokyo

Facebook

公式アカウントは2つ。JAFからの最新ニュース、交通安全・クルマに関するお役立ち情報、そして、モータースポーツファンに向けて気になるトピックやタイムリーな話題を発信しています。

JAF 日本自動車連盟



JAF モータースポーツ



YouTube

YouTubeで幅広く多くの人に情報を発信。「JAF Channel」では交通安全やJAFの活動に関する動画をアップ。「JAF MOTORSPORTS」は国内四輪モータースポーツ専門チャンネルです。

JAF Channel



JAF MOTORSPORTS



接続品質とお客さま満足度の向上を目指して

コールセンター／支部窓口

総合案内サービスセンターでは、各種手続きやサービスの案内をおこなっています。受電体制の強化や対応品質の向上に取り組むほか、電話を介さずにチャットボットでお手続きを承るウェブ案内ページの拡充など、利便性の向上にも力を入れています。各種手続きのオンライン化にともない、支部窓口では常時対応を終了し、完全予約制に移行しました。



会員数 20,744,354名
 運転免許保有者の約4人に1人が会員です

8地方本部と全国の在籍会員数

北海道本部 会員数841,035名

札幌支部 函館支部 旭川支部
 釧路支部 帯広支部 北見支部

東北本部 会員数1,528,868名

青森支部 岩手支部 宮城支部
 福島支部 秋田支部 山形支部

関東本部 会員数6,842,240名

新潟支部 長野支部 茨城支部 栃木支部 群馬支部
 埼玉支部 千葉支部 東京支部 神奈川支部 山梨支部

中部本部 会員数4,109,252名

富山支部 石川支部 福井支部 岐阜支部
 静岡支部 愛知支部 三重支部

関西本部 会員数3,254,564名

滋賀支部 京都支部 大阪支部
 兵庫支部 奈良支部 和歌山支部

中国本部 会員数1,234,042名

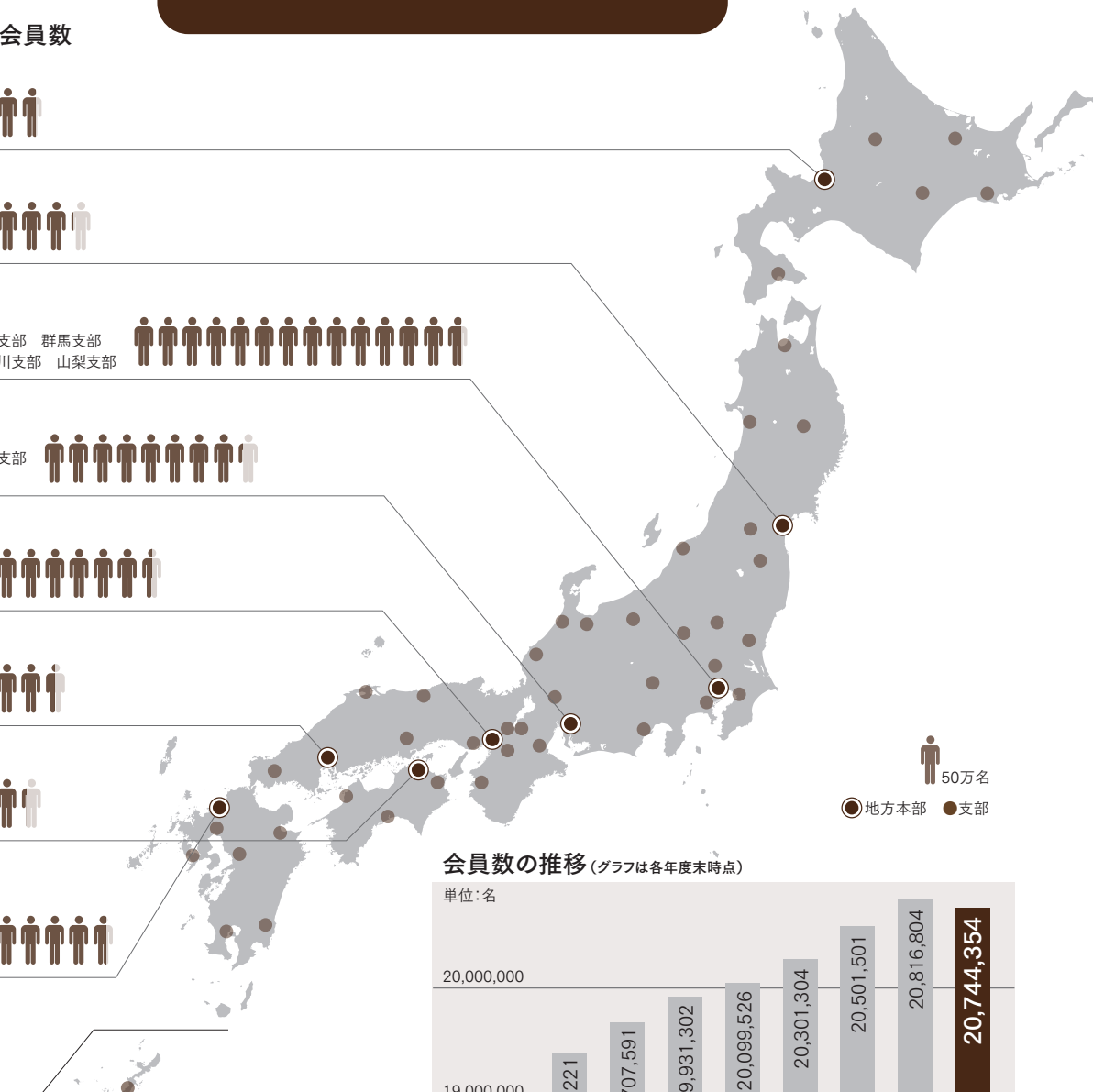
鳥取支部 島根支部 岡山支部
 広島支部 山口支部

四国本部 会員数604,720名

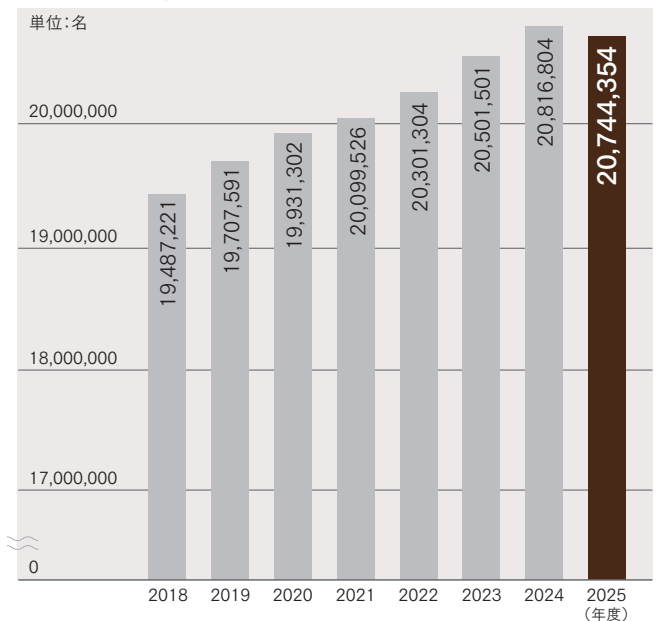
徳島支部 香川支部
 愛媛支部 高知支部

九州本部 会員数2,329,633名

福岡支部 佐賀支部 長崎支部
 熊本支部 大分支部 宮崎支部
 鹿児島支部 沖縄支部



会員数の推移(グラフは各年度末時点)



※2025年度は会員規則改正による集計方法の変更で、一時的に会員数が減少しています。

一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)

創立	1963年(昭和38年)4月1日
活動拠点	1本部/8地方本部/52支部
職員数	3,505名

会員

種類	会員数
個人会員	13,497,407名
家族会員*	6,359,067名
法人会員	887,880名

※個人会員と同居または生計を同一にする家族(個人会員1名につき5名まで)